



2020年に日本は東京オリンピック・パラリンピック(オリパラ)を迎える。56年ぶりに、4年に1度の人間賛歌の祭典が再び巡ってくる。前回大会と今回で決定的に異なる点がある。前回は必ずしも強調されなかったパラリンピックに今回は強く光が当てられていることだ。

パラリンピックは様々な障がいのある選手たちが、

新しい技術にも助けられて限界に挑む機会である。人の多様性を認め、共生社会を実現するための重要な契機であると、人々に強く認識されるようになったことに他ならない。

いま一つは、日本が少子

高齡社会に突入し、社会のあり方を根本的に考え直すなくてはならない時代となったことだ。とりわけ高齡者も健康で活力ある人生を享受し、働きながら社会に貢献できたらずばらしい。

た事実は関係者の間では広く認識されていて、13年には日本糖尿病学会と日本癌学会の合同委員会が「糖尿病とがん」に関して詳細な検討を行った。不適切な食生活、運動不足、喫煙、過剰飲酒は糖尿病とがんの共

起する深刻な医療社会問題として「運動不足」があるなら、オリパラはこの問題に對して国として取り組む重要な契機となろう。

定期的な運動でがんや糖尿病を遠ざけることができれば、両者が進行した際に起る深刻な医療社会問題に對して大きなインパクトを与えるに違いない。



垣添 忠生

日本対がん協会 会長

受動喫煙対策

屋内全面禁煙 五輪へ必須

の健康問題である。健康問題を通じてオリパラを考えたい。

通危険因子である。こうした事実から社会に対しても両学会からの働きかけがなされている。

オリパラに出場する主として若く健康な選手たちの活動をしながら、日本国民が自らの健康問題を意識する機会となればよい。

オリパラを迎えるに際して、いま一つ考えなければならぬ健康問題は喫煙、特に受動喫煙対策である。たばこが、吸う本人だけでなく、周囲の人々の健康にも悪影響を与えることが明らかとなったのは実に30年以上前にさかのぼる。

17年11月の国際的な医学雑誌のオンライン版に興味深い論文が出た。「世界のがんの約6%は糖尿病と肥満が原因」という。こうした

がんも糖尿病も、日本があるいは世界が抱える大きな健康・医療問題である。両者に共通する危険因子と

オリパラを迎えるに際して、いま一つ考えなければならぬ健康問題は喫煙、特に受動喫煙対策である。たばこが、吸う本人だけでなく、周囲の人々の健康にも悪影響を与えることが明らかとなったのは実に30年以上前にさかのぼる。

国際オリンピック委員会(IOC)は、1988年以降、オリンピックに際して禁煙の方針を採択した。さらに2010年、世界保健機関(WHO)と「たばこのない五輪」を指すとの協定にも調印した。オリンピック開催国にとって屋内禁煙化は必須要件となってきた。

〈2面に続く〉